

朝日庄内プロジェクトの改訂について

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター
自然再生指導官 庄司卓矢

1 はじめに

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは平成 16 年に開所し、同年策定した「森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト（朝日庄内プロジェクト）」に基づき、管理委員会による朝日山地森林生態系保護地域の保全管理、鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊（土湯の森）自然再生実施協議会による緑の回廊の自然再生など、地域と一体となって業務を行ってきたところであるが、本プロジェクト導入後 5 年が経過し、本プロジェクトを取り巻く情勢や本プロジェクトに対する期待も変化してきていたことから、3 回の検討委員会とパブリックコメントを経てプロジェクトを改訂したので、その経過と概要について報告する。

2 検討の経過

プロジェクト改訂の検討に当たっては、広く国民の意見を反映できるよう、学識経験者や地域の自然保護団体等から構成される「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会を設置し、3 回にわたって検討を行った。委員の構成は、大学教授 2 名、自然保護団体 2 名、森林整備 NPO 1 名、地方自治体 2 名、マスコミ関係 1 名の計 8 名で、委員会の開催日は表-1 のとおりである。

表-1 「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会等の開催日

9月24日（木）	第1回「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会
10月29日（木）	第2回
11月10日～11月30日	パブリックコメント
12月10日（木）	第3回「朝日庄内プロジェクト」リニューアル検討委員会

平成 21 年 9 月 24 日に開催した第 1 回検討委員会では、本プロジェクトのこれまでの取り組みと課題等について取りまとめたうえ、今後の方向性について、ネットワーク化、情報収集・現況把握、情報発信・情報提供、天然林化等のご提案をいただいた。この議論を踏まえ、メールマガジン等による積極的な情報発信や、関係機関と連携した森林環境教育の実践などを新たに盛り込んだ新プロジェクトの素案（表-2）を作成し、10 月 29 日に開催した第 2 回検討委員会で更に検討を加え、改訂案を作成した。11 月 10 日から 11 月 30 日にかけてインターネット上で新プロジェクト改訂案について広く意見を募集し



庄内森林管理署で行われた第 2 回検討委員会

たところ2件の意見が提出され、12月10日に開催した第3回検討委員会においてこのパブリックコメントについて論議した上で、新たなプロジェクトが了承された。

3 新プロジェクトの内容

新プロジェクトでは、生物多様性の把握とその適切な保全の観点を強化し、これまで進めてきた朝日山地森林生態系保護地域の保全や鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備、庄内海岸林や高館山の保全活動、朝日自然塾の更なる充実に向け、新たなネットワークの構築に取り組むこととした。また、地方自治体等の関係機関などとの情報共有やネットワークの強化も同時に図っていくこととした。プロジェクトの改正箇所は表3のとおりである。

「朝日山地森林生態系保護地域の保全」については新たに「生物多様性の実態と動態の把握」「人工林の天然林化」「現況把握」を項目として追加し、「鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備」では、これまで実施してきた「スキー場跡地等の植生復元」等に加えて「森林環境教育の実施」「現況把握」を新たに追加した。

「庄内海岸林の保全活動」には、「巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握」と「森林環境教育の実施」を新たに追加するとともに、これまで庄内海岸林の一部として扱ってきた「高館山」については、隣接する上池・下池がラムサール条約に登録され注目を集めていることから独立したエリアとして記載し、「巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握」「森林環境教育の実施」を掲げた。

また、これまで実施してきたもののプロジェクトには掲上していなかった朝日自然塾について明記したほか、「ボランティアが行う森林整備や森林環境教育への協力」を「その他」として記述した。

なお、プロジェクトをより効率的・効果的に実施するために「地元団体等との連携」の記述を全面的に改め、これまでの連携団体に加えて、地域の生物調査に取り組む団体を含め、幅広く「サポーター（仮称）」を募って、プロジェクトへ参画を求めるとともに、関係団体のネットワーク強化を図るなどとした（図-1）。

4 おわりに

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは、開所以降「地域と連携した森林の保全管理」を目指して活動を行ってきたが、今回のプロジェクト改訂を機に、これまでエリア毎に設けていた委員会等に加え、これらを包括し更に広範囲の国民の参加によるネットワークを構築し、より国民視点に立った「地域と連携した森林の保全管理」に取り組んでいきたい。

表-2 新「朝日庄内プロジェクト」の検討経過

旧プロジェクトの内容	今後の方向 (案)	検討会意見への対応			
		ネットワーク化		情報センター化	
		情報収集環境把握	情報発信情報提供	情報センター化	
		天然林化	新プロジェクト素案		
1 朝日山地森林生態系保護地域の保全				1 朝日山地森林生態系保護地域の全	
管理委員会	今後も管理委員会の議論に基づき保全管理を実施。			管理委員会の運営	
特別モニタリング調査の実施	第2期のモニタリングについて継続的に実施、広域的な動態変化の把握を行う新たなモニタリング調査を検討すべきではないか。 森林生態系保護地域域内における生物種のリスト整備を図るべきではないか。この場合、地元大学の専門家や愛好会等の協力を広範かつシステムティックに得る仕組みの構築を検討すべきではないか。	◎	◎	生物多様性の実態と動態の把握 特別モニタリングの引き続き実施、 広域的動態把握及び生物種リストの整備	
ボランティア巡視	引き続き巡視による森林生態系保護地域の保全・啓発を行う。 ボランティアの巡視報告体制を再整理すべき。 より効果的・計画的な方法を検討すべきでないか。	◎	◎	人工林の天然林化 森林生態系保護地域域内の人工林の抜き伐り等による針広混交林化の推進	
				ボランティア巡視 効率的・効果的な巡視の実施	
				現況把握	
2 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備				2 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備	
モニタリング調査の実施	スキー場跡地の自然再生箇所以外のエリアについても、局委調査を補充するモニタリング調査を実施し野生動物の生息状況のきめ細かな把握に努める。	◎	◎	モニタリング調査の実施 スキー場跡地の自然再生回復状況調査の実施 野生動物の生息状況の把握	
自然再生施業	人工林のうち必要な箇所において、野生動物の生息環境に配慮しながら混交林化を進める施業を関係署と連携して実施することとし、具体的な実施箇所について検討すべきでないか。	◎	◎	自然再生施業 緑の回廊内の人工林の針広混交林化の推進	
スキー場跡地等の植生復元	自然再生実施計画に基づく事業を引き続き実施するとともに、モニタリングにより経過を十分見極め、自然再生実施協議会においてフィードバック。	◎	◎	スキー場跡地等の植生復元	
				森林環境教育の実施	
				現況把握	
3 庄内海岸林の保全活動				3 庄内海岸林の保全活動	
ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力 (被害状況の把握等)	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。	◎	◎	巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握 ボランティアと連携した巡視の実施による松くい虫被害等の把握及び生物多様性を把握するための調査	
ボランティアによる被害跡地の再生	今後も、ボランティアと連携して、被害跡地の発生に応じて取り組む。	◎	◎	ボランティアによる森林整備への協力 ボランティアによる森林整備の支援	
ボランティアによる森林整備	引き続き「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の構成機関としてボランティアの指導等に参画。	◎	◎	森林環境教育の実施 関係団体と連携した森林環境教育の実施	
(3-2 高館山の保全活動)				4 高館山の保全活動	
ボランティアによる松くい虫被害調査・防除への協力 (被害状況の把握等)	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。	◎	◎	巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握 ボランティアと連携した巡視の実施による虫害等の把握及び上池・下池の鳥類を含む生物多様性を把握するための調査の実施	
ボランティアによる被害跡地の再生	必要に応じて植栽等の再生事業に取り組む。 上池下池がラムサール条約登録湿地となったことを受け、水鳥の多数渡来する冬期においても巡視を強化し鳥類の観察・記録を実施する。	◎	◎	森林環境教育の実施 鶴岡市 (例えば庄内自然博物館構想 (仮称)) や関係団体と連携した森林環境教育の実施	
4 研究フィールドの提供等				5 朝日自然塾の展開	
(朝日自然塾の実施)	朝日自然塾連絡協議会において今後も対象者のスケールアップに工夫を凝らして実施、西川町子供農山村プロジェクト「月山山麓かもしか学園」等との連携を検討すべきではないか。	◎	△	朝日自然塾の実施 朝日自然塾協議会構成団体や西川町子供農山村プロジェクト等と連携した森林環境教育の実施	
森林環境教育への協力	引き続き実施するが、プログラムの固定化や指導者の習熟に応じて側方・後方からの支援コンソート。				
「やまがた公益の森」構想	引き続き「出羽庄内公益の森づくりを考える会」の構成機関としてボランティア団体の指導等に参画。	△	△		
ナラ枯れ被害対策	今後も森林管理署と連携して巡視等による被害状況の把握等に努める。				
				6 その他	
				ボランティアが行う森林整備や森林環境教育への協力	
		地元団体等との連携			
凡 例	◎ ◎ ◎ -	ネットワークの強化 モデルプロジェクトのよりよい効率的・効果的な実施を目指して、これまでの連携団体に加え地元に関連する団体等からモデルプロジェクトへ参画していただく「サポーター (仮称、以下同じ)」を募るとともに、「サポーター会議」を設立し、関係団体のネットワーク化を強化。 情報センター化 モデルプロジェクトに係る情報収集・発信の一元化 (例えば、関係機関・団体・サポーター等に対するメールマガジンの定期発行やサポーター等から定期的に情報提供を受ける仕組みなどシステムティックな情報収集・発信体制の構築)を図る。			

表-3 朝日庄内プロジェクト新旧対照表

改訂プロジェクト	旧プロジェクト
1 趣旨 (略)	1 趣旨 (略)
2 対象地域 (略)	2 対象地域 (略)
<p>3 内容</p> <p>朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを中心に、庄内森林管理署、山形森林管理署、置賜森林管理署と東北森林管理局が協力して、以下の事項を実施します。</p> <p>(1) 朝日森林生態系保護地域の保全 ア 管理委員会(※1)の運営 年1～2回開催 イ 生物多様性の実態と動態の把握 特別モニタリング(※2)の引き続き実施、 広域の動態把握及び生物種リストの整備 ウ <u>人工林の天然林化</u> <u>森林生態系保護地域内の人工林の抜き伐り等による針広混交林化の推進</u> エ ボランティア巡視 効率的・効果的な巡視の実施 21年度は80名程度委嘱 オ 現況把握</p> <p>(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備 ア <u>モニタリング調査の実施</u> <u>スキー場跡地の自然植生回復状況調査の実施、</u> <u>野生動物の生息状況の把握</u> イ 自然再生施業 <u>緑の回廊内の人工林の抜き伐り等による</u> <u>針広混交林化の推進</u> ウ <u>スキー場跡地等の植生復元</u> <u>自然再生実施協議会による実施</u> エ <u>森林環境教育の実施</u> <u>自然再生事業と連携した森林環境教育の実施</u> オ 現況把握</p> <p>(3) 庄内海岸林の保全活動 ア <u>巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握</u> <u>ボランティアと連携した巡視の実施による</u> <u>いん虫被害等の把握</u> <u>生物多様性を把握するための調査の実施</u> イ <u>ボランティアによる森林整備への協力</u> <u>ボランティアによる森林整備を促進するための</u> <u>支援</u> ウ <u>森林環境教育の実施</u> <u>関係団体と連携した森林環境教育の実施</u></p> <p>(4) 高館山の保全活動 ア <u>巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握</u> <u>ボランティアと連携した巡視の実施による</u> <u>虫害等の把握及び上池・下池の鳥類を含む生物多様性を</u> <u>把握するための調査の実施</u> イ <u>森林環境教育の実施</u> <u>鶴岡市(例えば庄内自然博物館構想(仮称))や</u> <u>関係団体と連携した森林環境教育の実施</u></p> <p>(5) 朝日自然塾の展開 <u>朝日自然塾協議会構成団体や西川町子供農山村プロ</u> <u>ジェクト等と連携した森林環境教育の実施</u></p> <p>(6) その他 ア <u>ボランティアが行う森林整備や森林環境教育への協力</u></p>	<p>3 内容</p> <p>朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを中心に、庄内森林管理署、山形森林管理署、置賜森林管理署と東北森林管理局が協力して、以下の事項を実施します。</p> <p>(1) 朝日山地森林生態系保護地域の保全 ア 管理委員会(※1)の運営 年1～2回実施 イ <u>特別モニタリング調査(※2)の実施</u> ウ ボランティア巡視 16年度は60名程度委嘱</p> <p>(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備 ア モニタリング調査の実施 イ 自然再生施業 ウ スキー場跡地等の植生復元</p> <p>(3) 庄内海岸林・高館山等の保全活動 ア ボランティアによるいん虫被害調査・防除の協力(被害状況の把握等) イ ボランティアによる被害跡地の再生 ウ ボランティアによる森林整備(植え付け・保育等)</p> <p>(4) 研究フィールドの提供等 ア NPOが行う「ふれあいの森」造成の協力 イ ナラ枯れ被害対策 ウ 「やまがた公益の森」構想の協力 エ 森林環境教育への協力 オ 「六十里越街道歴史資源活用事業」への協力</p>
<p>4 地元団体等との連携</p> <p>(1) ネットワークの強化 <u>モデルプロジェクトのより効率的・効果的な実施を</u> <u>目指して、これまでの連携団体に加え地元の関連する</u> <u>団体等からモデルプロジェクトへ参画していただき</u> <u>「サポーター(仮称、以下同じ)」を募るとともに、</u> <u>「サポーター会議」を設立し、関係団体のネットワ</u> <u>ーク化を強化します。</u></p> <p>(2) 情報センター化 <u>モデルプロジェクトに係る情報収集・発信の一元化</u> <u>(例えば、関係機関・団体・サポーター等に対する</u> <u>メールマガジンの定期発行やサポーター等から定期的</u> <u>に情報提供を受ける仕組みなどシステムティックな</u> <u>情報収集・発信体制の構築)を図ります。</u></p>	<p>4 地元団体等との連携</p> <p>モデルプロジェクトの企画・実施に当たっては、朝日 由地森林生態系保護地域管理委員会の構成メンバーを主 体としたNPOや地元の関係団体等の意見を聞くことも は、ボランティアによる協力を受けるものとし、 具体的には、表-1のとおりであり、管理委員会関係 は13団体、モニタリング調査の関係が4団体、朝日由 地の巡視活動が6団体、鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の 整備が4団体、庄内海岸林等保全活動が7団体を考えて います。</p>

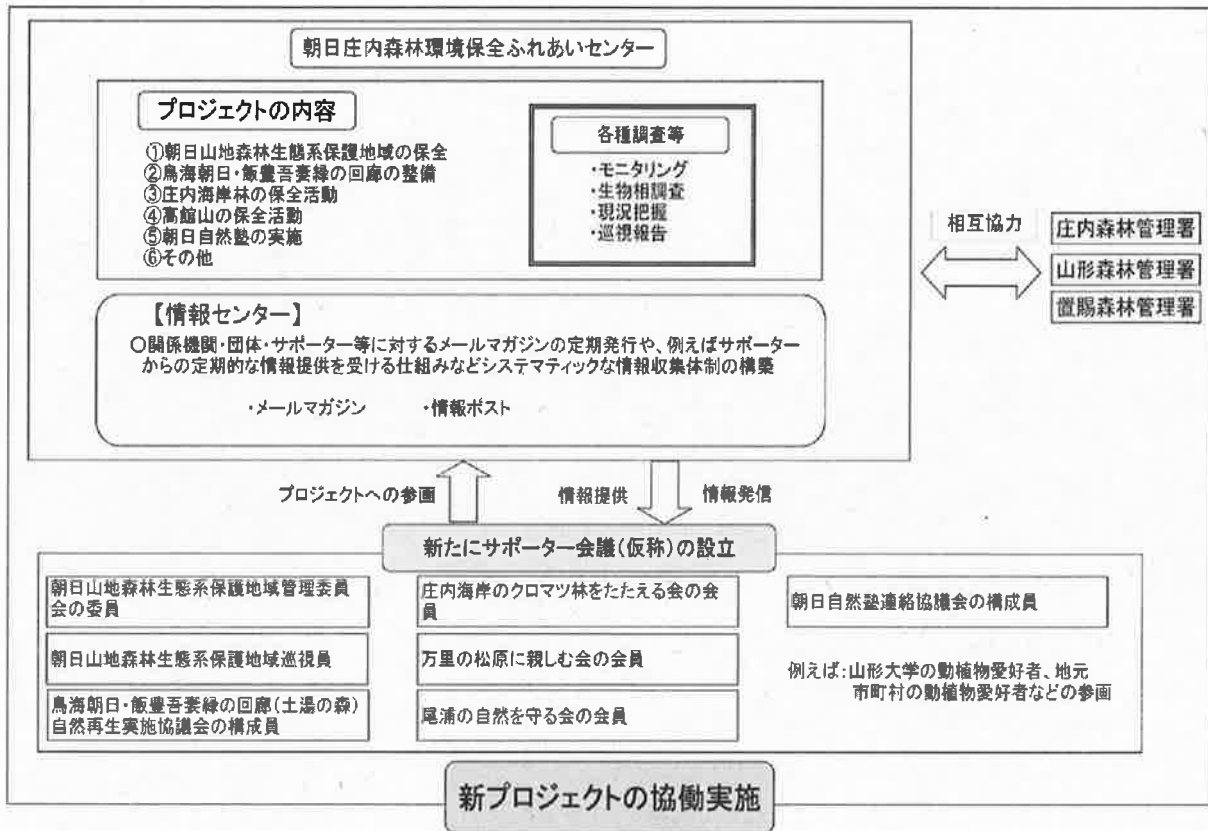


図-1 新プロジェクトの実施体制 (イメージ)